

第3学年社会科の実践

- 1 単元名 大単元「見直そうわたしたちの暮らし」
小単元「上手な買い物をするために」

2 単元目標

- 商品表示の意味を理解し、これからの買い物のしかたについて考え、買い物のしかたに対する意識を高めることができるようにする。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
・買い物をするときに、自分として特に気をつけたいことを決めることができる。	・自分で買い物をするときに、どのような考え方で買うか考えることができる。	・買い物をするときに、商品を比べてよいものを選ぶことができる。	・品物の品質表示の意味を理解することができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 単元について

小田原市の中心部にある三の丸小学区には、数多くの商店街や大型店舗がある。登下校や放課後など、多くの児童は日常的に商店街の中を歩き、いろいろな商店やショッピングセンターを日頃からよく目にしている。しかし、3年生の子どもたちは、まだ、普段、親の買い物に何気なくついて回ったり、自分が欲しいと思った物を買ってもらったりしているのが現状であり、自分で商品を品定めして買うという経験はあまり多くはない。本単元では、家庭や自分の買い物行動をあらためて見つめ直し、多くの商品の中から、よりよい物を見分ける賢い消費者の目を育てていきたい。

本単元では、調べた数値を表やグラフに表したり、地図に書き込んだりする活動も行う。前単元で、学区を歩き、地図の見方を学習してきたが、地図上で現在地を見つけたり、方角が分からなくなる児童も多い。学校や自宅と、商店の位置関係を一つ一つ地図で確認する作業を通して、現実世界と地図の世界を頭の中で重ね合わせることができるようにしていきたい。表やグラフについては、3年生の算数の学習でも行うが、社会科の学習の方で先に扱うため、丁寧に指導していく。

(2) 指導について

前小単元では、店側の立場で、たくさんのお客さんに来てもらうための工夫について考えてきた。最初のスーパーマーケット見学の際に、児童から、「何か買いたい。」という声が上がっていた。今回は、子どもたちの思いを生かし、最終的に、実際に買い物をするという目的をもって学習を進めていきたい。消費者の立場として、品物を選ぶ時にどんなところに気をつけるか具体的に考えさせたい。その際、値段や量だけでなく、品質や環境負荷にも目が向くように指導していく。

まず、給食でも毎日目にしており、子どもたちに身近な牛乳パックを例として扱い、「値段」や「量」の他に、「産地」「原材料や成分」「賞味期限（鮮度）」「環境負荷」など、表示ラベルからいろいろなことが読み取れることに気づかせる。

その後、自分が買ってきたと思うものをいくつか考えた上でスーパーマーケットに行き、値段や量、品質表示などを確認してくる。

そして、調べてきた情報をグループで持ち寄り、実際の買い物の計画を立ててみることにする。限られた金額の中で、自分たちがほしい食品を買うためにどういうところに気をつけて選ぶかをグループで話し合っていく。

「ひびき合い」「高め合い」について、現状では、少人数での話し合いでも自分の意見を出すのが苦手な児童が多いので、児童がより積極的に話し合いに参加できるような環境設定をしていく必要性を感じている。今回は、実際に買い物をするということで、より身近で切実な問題として児童が話し合いに臨めるような状況をつくっていくことにした。

話し合いでは、まず、一人ひとりで自分の考えをまとめ、それから、買い物グループで意見を出し合い、話し合いを深めていきたい。

4 単元計画（全27時間）

単元		学習活動	
見直そう わたしたちのくらし	1 買い物調べしよう(8)	<p>「自分たちは、どこに買い物に行くことが多いだろう？」</p> <p>○買い物調べをして、自分の家庭がどんなお店によく行くか確かめる。①</p> <p>○調べた結果を持ち寄り、表・グラフ・地図などに表す。⑤</p> <p>○多くの人が買い物に行くお店の特徴を確かめる。②</p>	
	2 店を調べに行こう(10)	<p>「どうして、スーパーマーケットには、たくさんの人が買い物に行くのだろうか？」</p> <p>○お客さんがたくさん来てくれるスーパーマーケットにするには、どうしたらよいか考える。⑤</p> <p>○スーパーマーケットに見学に行く。③</p> <p>○スーパーマーケットで調べてきたことをまとめる。②</p>	
	3 上手な買い物をするために(9)	<p>「上手な買い物をするためには、どんなところに気をつけたらいいだろうか？」</p> <p>学習活動</p> <p>○品質表示ラベルの見方を知る。①</p> <p>○スーパーマーケットの売り場の見学。②</p>	<p>主な支援・留意点【評価】</p> <p>・牛乳パックに書かれている表示の意味を理解できたか。【知識・理解】</p> <p>◇表示に書かれていることが十分に理解できていない場合は、漢字の読みや言葉の意味を説明する。</p> <p>・商品の表示を見て、買い物をする時に何に気をつけたらよいかを考えることができたか。【思考・判断】</p> <p>◇自分が買い物をするつもりで表示を見るように助言する。</p>

	○品質が良くて安いものを考える。①	・メモしてきた商品の情報から、良い商品を選択することができたか。【思考・判断】
	○買い物の計画を立てる。①【本時】	※本時展開参照
	○スーパーマーケットに買い物に行く。②	・自分たちで考えたとおりに工夫して買い物をすることができたか。【技能・表現】
	○買ってきたもので会食をする。①	・これまで調べてきたことをもとにした話し合いを通して、どのような買い物のしかたをすればよいのか考えることができたか。【思考・判断】 ◇ワークシートや資料などを見て、これまでの学習を振り返るように助言する。
	○上手な買い物のしかたをまとめる。①	

5 本時について

(1) 本時の目標

- ・ 買う品物を選ぶ時に、値段や量だけでなく、賞味期限や原材料、生産地など、品質や環境負荷にも目を向けることができる。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の支援・留意点・評価
<p>1 上手な買い物をするためには、どんなところに気をつけたらいいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段 ・量 ・味 ・栄養 ・安全 ・環境 	<p>※値段と量の関係からどちらが得か考えさせる。</p> <p>※商品の安全性やゴミなどの環境問題にも目を向けさせる。</p>
<p>2 グループの「買い物計画書」をつくろう。</p> <p>(1)グループの中で、自分が選んだものを発表する。</p> <p>(2)グループどの商品を買うことにするか話し合っって選定する。</p> <p>果物は、どれを選ぼうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮なものを選ぼう。 ・おいしそうなものを選ぼう。 ・安くて量が多いものを選ぼう。 ・近くで作られたものがいい。 <p>飲み物は、どんなものを選ぼうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さいビンで人数分買うより、大きなビンを1本買って分けた方が得だ。 ・体にいい飲み物にしよう。 ・ペットボトルより紙パックの方が環境にやさしいかな。 	<p>・自分のお薦め品を理由をつけて説明できたか。【思考・判断】</p> <p>※商品の写真を準備して、説明しやすい環境を整える。</p> <p>・上手な買い物をするための工夫に関心を持ち、進んで発表したり、話し合ったりする意欲をもつことができたか。【関心・意欲・態度】</p> <p>・どんな視点で商品選びをしたらいいのか考えることができたか。【思考・判断】</p> <p>買い物の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予算はグループで600円(一人あたり150円)。 ○果物から1品、飲み物から1品。

<p>3 グループの「買い物計画書」を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのグループが選んだ商品を発表し、その商品を選んだ理由を説明する。 ・他のグループの発表を聞いて、自分たちの選んだものが本当によいものであったか見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで発表したり、話し合ったりする意欲をもつことができたか。【関心・意欲・態度】 ※他のグループの商品選びのポイントを参考にさせる。
---	--

6 実践を終えて

(1) 成果

本単元では、児童には、よい商品を買ってきて実際に食べるという最終目的がある。より多くの児童が、学習意欲を高め、持続していくには、最も切実な課題ではなかったかと思う。

本時では、自分が買いたいと思った商品の良さをグループの話し合いの中で出し合ったが、言葉だけではなかなか説明しきれない部分もある。そんな時、もう一度見てみたいということになる。本時の授業、スーパーマーケットの現場で行えれば一番よかったわけだが、それを実現することは難しい。そこで、次善の策として、スーパーマーケットの店長さんの了解のもと、商品の陳列棚の写真を撮り、教室内にスーパーマーケットの一部を再現した。そのことにより、話し合いの途中でも、必要に応じて、もう一度グループのみんなで商品を確認することができた。写真がなければ、メモしてこなかったところは想像で話し合うしかないが、すぐに再確認できたので、話し合いがより具体的な内容になった。写真は、子どもたちの学習意欲を高め、話し合いを深める上でも、大いに役立った。

また、単元を通して、商品選びの視点が、個人の好み「好きか・嫌いか」にならないように気をつけて授業を展開してきた。前時までのスーパーマーケットの見学では、商品選びの視点として「値段・栄養・量・安全・味・環境」の6点をおさえた上で、自分が一番よいと思う「果物」と「飲み物」を決めてきた。グループでの話し合いも、この視点を再確認してから始めた。商品選びの視点を常に意識させたことで、話し合いの視点のぶれもおさえられ、子どもたちのひびき合いも生まれてきた。

(2) 課題

今回の商品選びの視点は、3年生の児童には難しいところがあった。児童にとって、「値段」「量」「味」「賞味期限」などは分かりやすい視点だが、「成分」や「安全性」などは、高学年の家庭科の内容である。「カロリーが少ないものもいい。」とか「ビタミンがたくさん入っていた方が体によさそう。」など、テレビCMなどで耳にしているが、その理由まで分かっている児童は少ない。今回の単元でも、この部分について深く学習する時間はなく、「何となく体によさそう」という程度の理解で商品選びをしていた。食育などどうまく関連させた単元作りを今後考えていきたい。